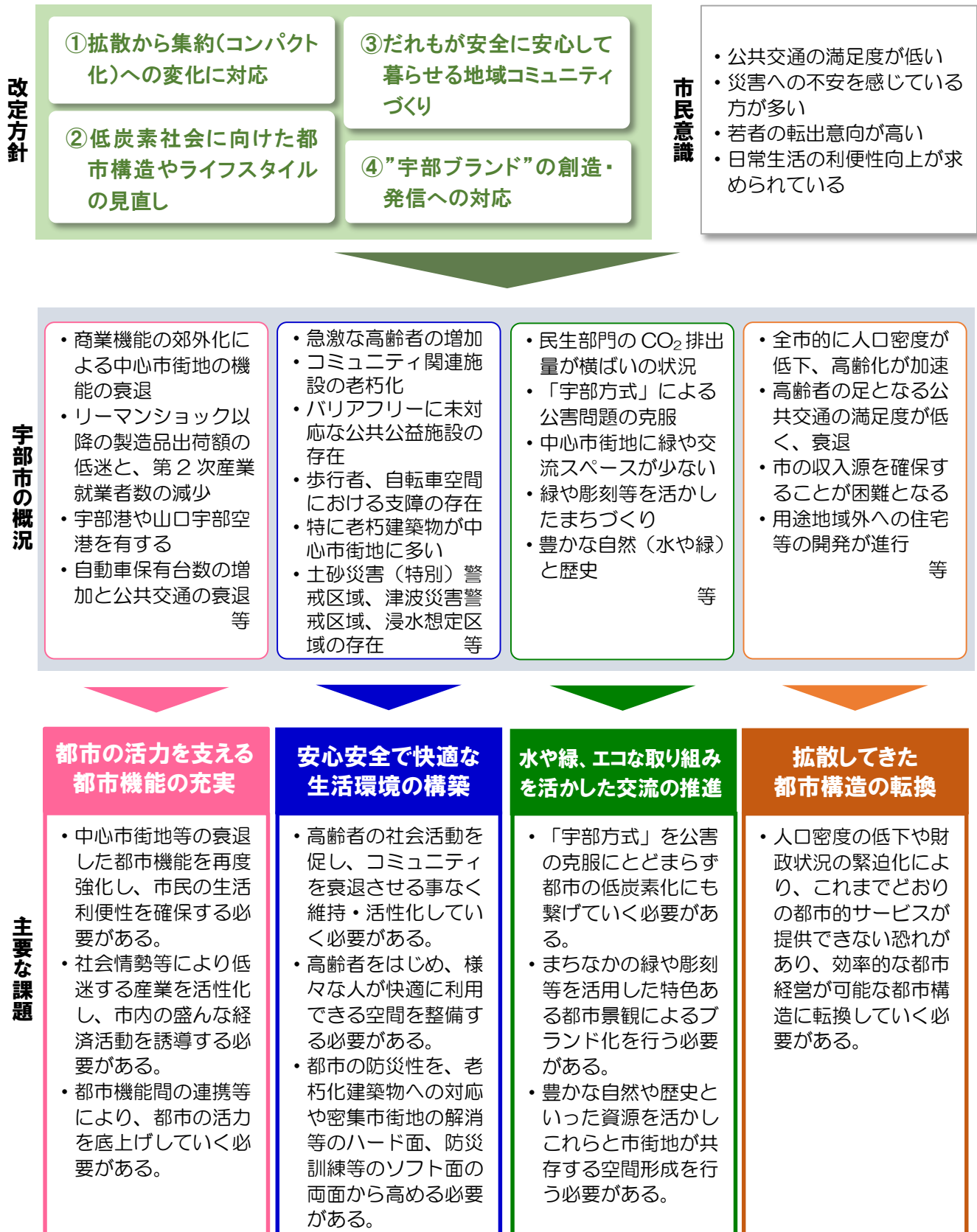


3 都市づくりの課題と目標

3.1 都市計画上の主要な課題

改定方針、市民意識、宇部市の概況を踏まえ、本市の都市計画上の主要な課題を以下のとおり示します。



3.2 都市の将来像と都市づくりの目標

3.2.1 都市の将来像

本市の都市の将来像は、「第四次宇部市総合計画」の「求める都市像」とあわせて設定します。

みんなで築く 活力と交流による元気都市

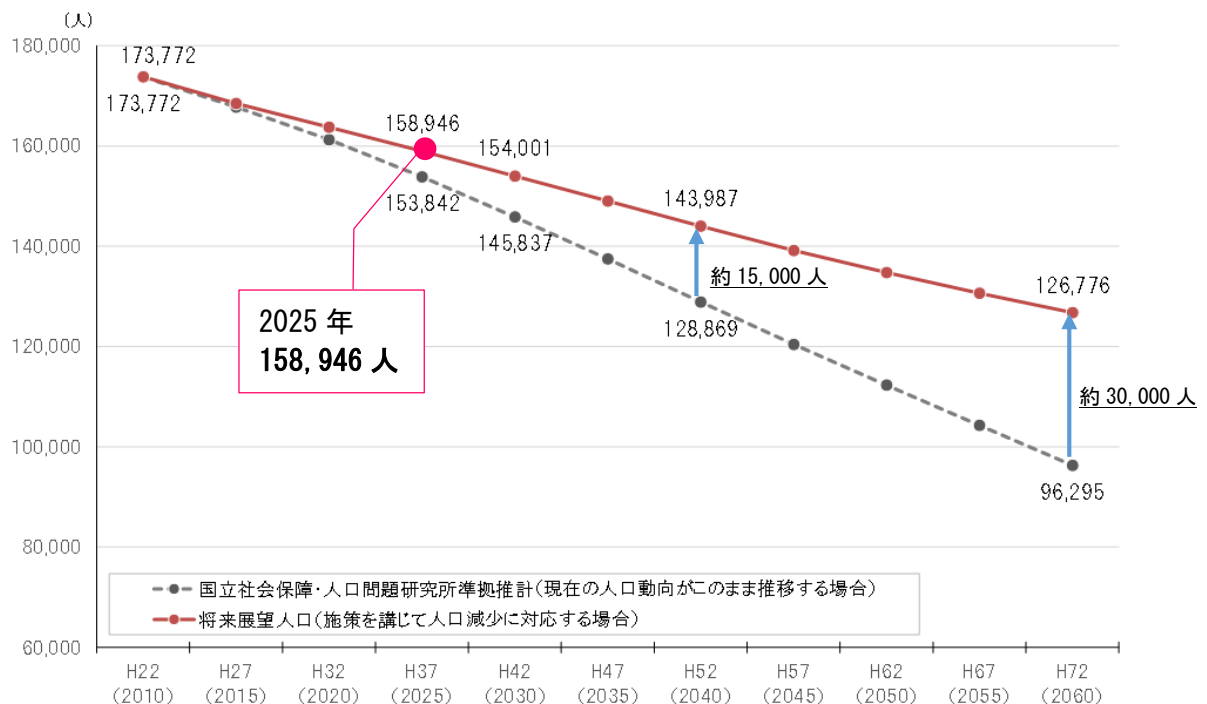
地域資源を共有し、みんなの元気を発信する協働のまちをめざして

「共存同栄・協同一致」、「人間が尊重される都市づくり」を基本とし、まちづくりの合言葉である”元気”ある都市を、行政と市民や団体、高等教育機関等が協働し、実現していくことが求められています。

市民一人ひとりや地域を尊重し、みんなが主役で”元気”な都市をめざします。

3.2.2 将来人口

下図は、「人口ビジョン」で示した将来人口の推移であり、上の折れ線グラフは人口減少に対する様々な施策を講じた場合の将来人口を、下の折れ線グラフは現在の人口動向がそのまま推移する場合の将来人口を示しています。本計画では、この「人口ビジョン」における「施策を講じた場合」の将来展望人口を踏襲し、計画の目標年次である2025年における目標人口を159,000人とします。人口の減少や少子化・高齢化の進展、それに伴う財政状況の緊迫化等、本市の都市計画を取り巻く状況はますます厳しくなる事が予想されますが、先に掲げた都市の将来像の実現に向けて、様々な施策に取り組みます。



出典：宇部市人口ビジョン（2015年）

図 宇部市の将来展望人口の推移

3.2.3 都市づくりの目標

主要な課題の解決と都市の将来像の実現に向けて、以下の目標を掲げます。

1 都市空間の再編で活力を高める都市づくり

- ・ 中心市街地等の各拠点の都市機能を一層強化することで、利便性の高い市民生活を送ることができる都市をめざします。
- ・ 瀬戸内有数の産業都市として、空港や港湾、物流の機能強化による産業基盤の維持や新産業集積の促進等により、活発な産業活動が行われる都市をめざします。
- ・ 各拠点や地域コミュニティ核間を利便性の高い公共交通ネットワークおよび道路ネットワークでつなぐことにより、誰もが移動しやすい都市をめざします。

2 安心できる暮らしをみんなで築く都市づくり

- ・ 利便性の高い地域への居住誘導や、日常生活に必要な施設の充実により、持続的な地域コミュニティ活動が行われる都市をめざします。
- ・ 身近な道路や公共施設等のバリアフリー化の推進、自転車の利便性向上等により、誰もが気軽に出かけられる都市をめざします。
- ・ 事前防災や減災の視点から、都市の防災性の強化や防災体制を構築することにより、災害に強い都市をめざします。

3 宇部らしい環境を交流につなげる都市づくり

- ・ 産官学民による公害問題の克服等、本市の誇れる環境への取り組みを継承し、都市の低炭素化に向けた取り組みを行うことにより、地球環境にやさしい都市をめざします。
- ・ ときわ公園に代表される市街地内の自然（水・緑・花）、ときわ公園や中心市街地に展開される彫刻、臨海部の工場や丘陵地の農地等、様々な顔を有する景観を誘導することで、うるおいの感じられる都市をめざします。
- ・ 荒滝山や霜降山、平原岳といった広大な自然空間、小野湖や東部の自然海岸といった水辺空間、寺社仏閣といった歴史空間等、宇部の個性を守り育てることにより、地域資源を身近に感じられる都市をめざします。

4 多様な機能が便利につながる都市づくり

多極ネットワーク型
コンパクトシティ
（集約型都市構造）
の実現

- ・ 左記の1～3の目標実現に向けた取り組みを通して、都市機能や居住の誘導について検討を行い、集約型都市構造化をめざします。
- ・ これまで拡散傾向にあった市街地を見直し、多極ネットワーク型コンパクトシティ（拠点や地域コミュニティ核、それらを結ぶネットワークにより、利便性の高い市民生活が可能）をめざします。

3.3 多様な機能が便利につながる都市づくり(集約型都市構造の実現)

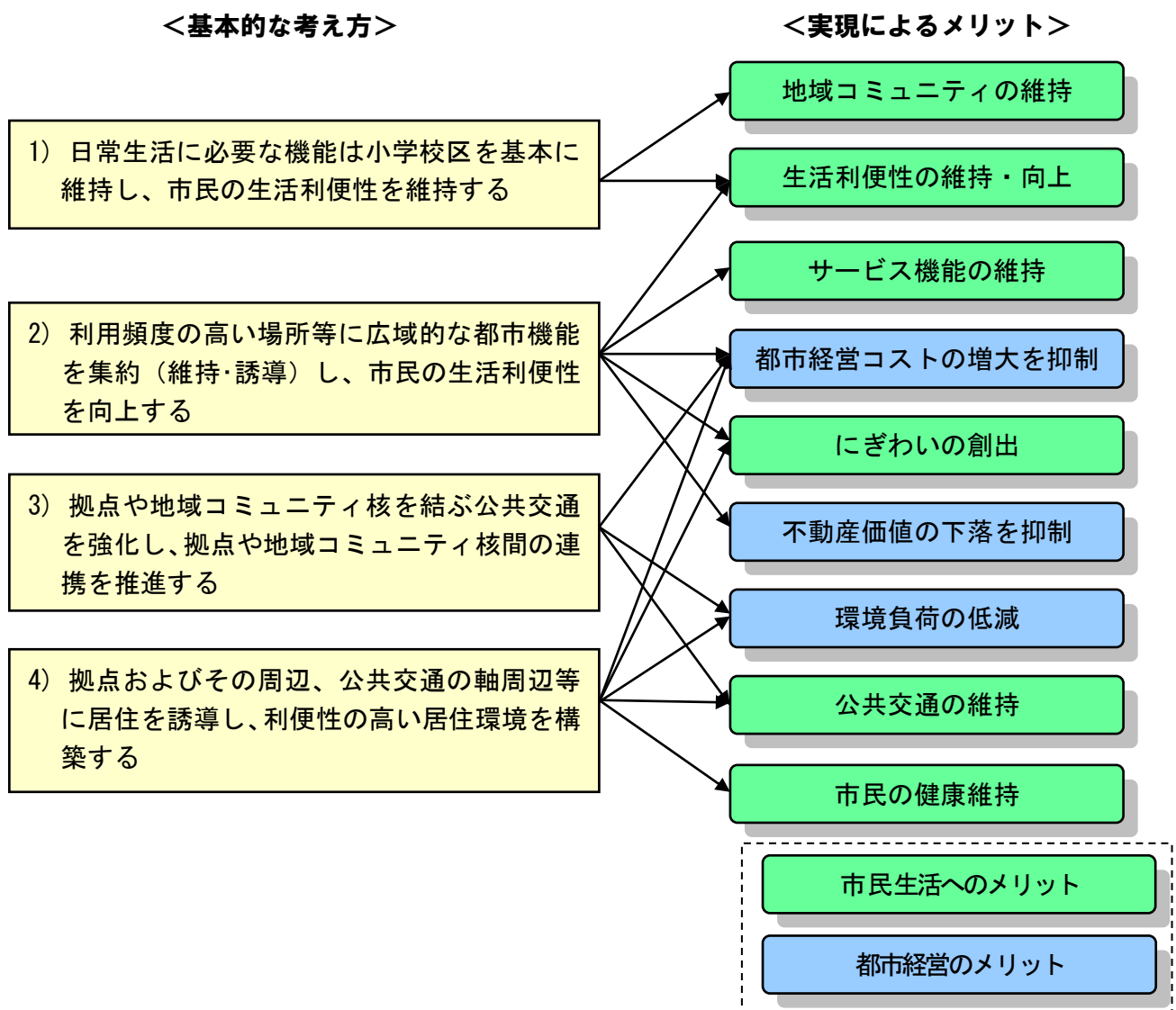
3.3.1 多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けた基本的な考え方

1) 多極ネットワーク型コンパクトシティの基本的な考え方

【基本的な考え方】

- (1) 日常生活に必要な機能は小学校区を基本に維持し、市民の生活利便性を維持する
- (2) 利用頻度の高い場所等に広域的な都市機能を集約し、市民の生活利便性を向上する
- (3) 拠点や地域コミュニティ核を結ぶ公共交通を強化し、連携を推進する
- (4) 拠点およびその周辺、公共交通の軸周辺等に居住を誘導し、利便性の高い居住環境を構築する

以上の4つの基本的な考え方により、市民の日常生活の観点や行政の都市経営において双方メリットが生じます。基本的な考え方とメリットの関係性について、以下のように考えられます。



2) 宇部市がめざす多極ネットワーク型コンパクトシティ(イメージ)

都市拠点とは、これまで蓄積してきた都市のポテンシャルを活かし、市内外からの来街者が利用できる高度で多機能な都市機能を集約させ、本市の顔としてふさわしいにぎわいを再生していきます。地域拠点は、複数の小学校区を含んだ地域において、生活に必要な都市機能や地域住民を対象とした特定の高度な都市機能を備えることで、生活利便性の向上を図ります。地域コミュニティ核は、小学校区を基本に日常生活に必要なサービス機能や地域コミュニティを可能なかぎり維持していきます。

この都市拠点、地域拠点、地域コミュニティ核間を鉄道やバス等の公共交通で結び、それぞれの地域コミュニティ核や拠点ごとにコンパクトなまちづくり（多極ネットワーク型コンパクトシティ）を推進します。

また、地域コミュニティ核等で不足する日常生活に必要なサービスは、広域的利用に対応した拠点や他の地域コミュニティ核に公共交通でアクセスすることにより補完します。

長期的には、都市拠点や地域拠点およびその周辺、公共交通の軸周辺等に居住誘導を図っていきますが、自然環境の良い郊外部や農村部への居住を制限するのではなく、ライフスタイルに応じて市民が居住する場所を選択できるようにします。



出典：宇部市にぎわいエコまち計画（2015年）

図 多極ネットワーク型コンパクトシティ(イメージ)

3.3.2 都市機能を集約する拠点・地域コミュニティ核と公共交通軸に関する方向性

1) 都市機能を集約(維持・誘導)する拠点・地域コミュニティ核

本市において市民の生活利便性を向上させるため、広域的な市民の利用が見込まれ、利用頻度が高い市街地において、「拠点」として都市機能の集約を図ることが求められます。この拠点の設定については、現在の都市機能の集積状況ならびに、広域的な公共交通の状況も踏まえながら、「都市拠点」と「地域拠点」の序列を設けます。

また、小学校区を基本として、日常生活に必要な身近な機能を可能な限り維持し、市民の日常生活の利便性を確保する場所として、「地域コミュニティ核」を位置付けます。

また、日常生活に密接に関係する地域コミュニティ核や広域的利用に対応した拠点間の移動手段を確保することで機能を互いに補完し、相互の連携を促す「公共交通軸」の確保・強化を行います。

表 各拠点および地域コミュニティ核の市民生活における利用のイメージ

名称	市民生活における利用のイメージ	該当箇所
都市拠点	市民に対して多様なサービス(行政、商業、医療、福祉、子育て支援、文化施設)を提供し、市外に対しても市の顔として市の魅力を伝える地域。 地域拠点や地域コミュニティ核からのアクセスが可能な交通結節点がある。県外への玄関口となる山口宇部空港へのアクセス性が高い。 ●利用範囲: 宇部市(全域)の住民、来街者 ●あらゆる拠点・地域コミュニティ核から公共交通によるアクセスが可能(評価した都市機能は P.100 を参照)	中心市街地 周辺
地域拠点	都市拠点と互いに補完しながら、市民に対して多様なサービス(商業、医療、福祉)を提供する地域。 地域コミュニティ核よりも集客性のある機能を有する。 ●利用範囲: 複数の小学校区を包含した地域 ●都市拠点もしくは他の地域拠点への公共交通によるアクセス性が高い ●近接する地域コミュニティ核から公共交通によるアクセスが可能(評価した都市機能は P.100 を参照)	宇部駅周辺、 黒石、岬、 西岐波
地域コミュニティ核	小学校区を基本に、日常生活において必要とされる基礎的なサービス(行政、医療、福祉)を提供するとともに、コミュニティ活動の中心となる場となる地域。 都市拠点や地域拠点へのアクセスが可能で、近隣の地域コミュニティ核の補完的な役割も担う。 ※今後、小学校区の再編があった場合でも、近隣の拠点や地域コミュニティ核との連携により、日常生活に必要な機能が提供されるよう考慮する。 ※各ふれあいセンターを中心として位置付けるが、都市拠点や地域拠点と重複する箇所については除外した。 ●利用範囲: 当該小学校区・近接小学校区の住民 ●都市拠点や地域拠点へ公共交通によるアクセスが可能(評価した都市機能は P.107 を参照)	藤山、小羽山、上宇部、琴芝、恩田、常盤、原、川上、東岐波、船木、万倉、吉部、小野、二俣瀬、厚東

※都市拠点・地域拠点は、「にぎわいエコまち計画」において、客観的データによる評価を通して位置付けています。

2) 公共交通軸

地域住民の移動手段となる公共交通の軸を設定し、公共交通ネットワークを形成します。

地域コミュニティ核等で不足する日常生活に必要なサービスは、公共交通を利用し、広域的利用に対応した都市拠点、地域拠点で補完します。このため、都市拠点、地域拠点、地域コミュニティ核間を鉄道（JR）やバス等の公共交通で結び、利便性が高く快適な移動環境を構築することでネットワークが強化され、地域間の交流促進、市民生活の利便性向上、地域の活性化等に寄与すると考えられます。

そこで、拠点や地域コミュニティ核をつなぎ、将来的に一定の運行本数が確保されるバスおよび鉄道（JR）を、「公共交通軸」と位置付けます。

市内でも比較的本数が多いバスの東西軸を「主要幹線軸」とし、地域コミュニティ核と主要幹線をつなぐ軸を「地域内幹線軸」とします。その他は地域内支線とします。また鉄道（JR 山陽本線、宇部線、小野田線）を JR 軸とします。

表 市民生活における公共交通軸の利用のイメージ

名称		市民生活における利用イメージ
バス	JR 軸	・新山口駅方面や小野田駅方面等、市外への移動、都市拠点や地域拠点間の比較的広域の移動
	主要幹線軸	・主に都市拠点や地域拠点から、地域コミュニティ核への広域移動の際の乗換え
	地域内幹線軸	・主に地域コミュニティ核間や、地域コミュニティ核から郊外への移動の際の乗換え
鉄道	JR 軸	

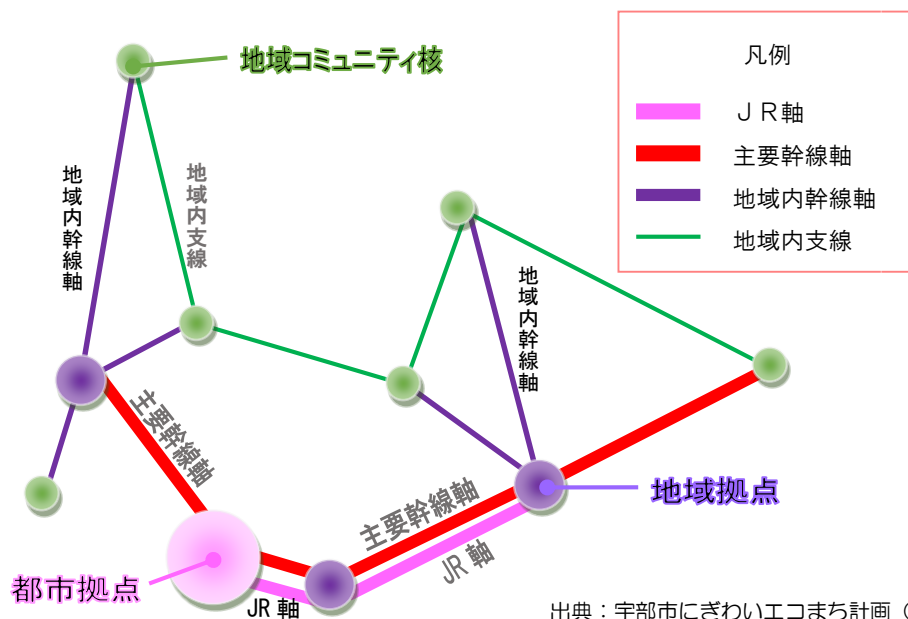


図 拠点・地域コミュニティ核と公共交通軸のイメージ

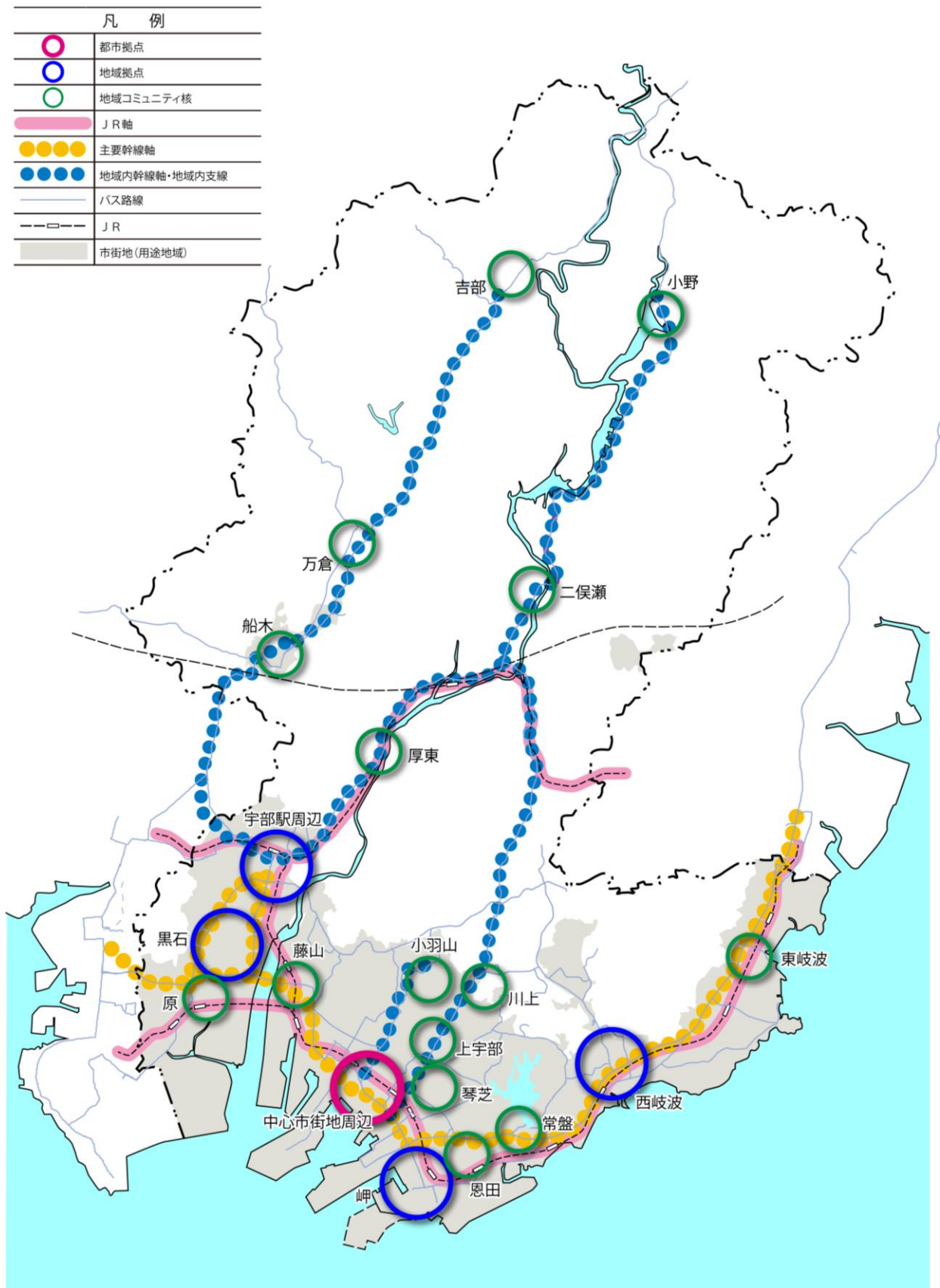


図 都市拠点および地域拠点、地域コミュニティ核の位置および公共交通軸

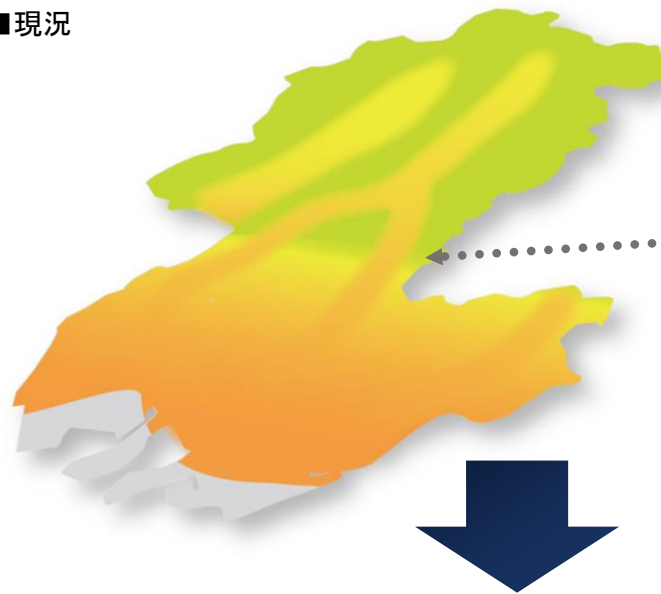
3) 将来の居住空間のイメージ

多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向け、先に整理した拠点や地域コミュニティ核、公共交通軸の利用イメージや配置を踏まえ、今後めざしていく将来の居住構造を示します。

現況では、郊外部の開発等により市街地が拡散しており、将来的には人口が減少し、都市経営コストの増大やコミュニティの希薄化等の問題が生じることが予想されます。

そのため、将来的には拠点およびその周辺、公共交通軸周辺等に居住を誘導し、都市経営コスト増大の抑制や地域コミュニティの維持を実現することで、持続可能なまちづくりを進める必要があります。

■現況

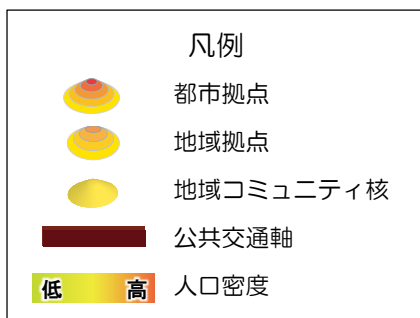
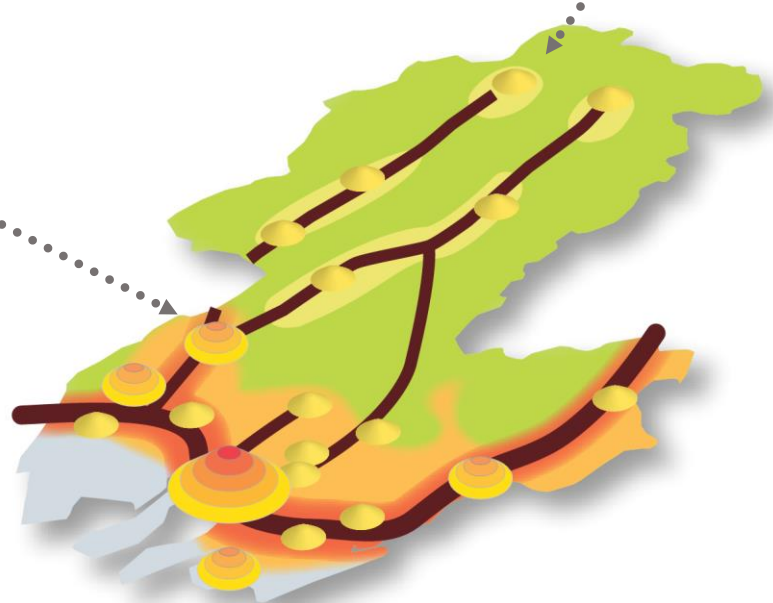


市街地が拡散し、
低密度化している

■将来

市街地外の住宅開発が
抑制され、自然環境が
保全されている

拠点およびその周辺、公共
交通軸周辺等への居住が
進み、密度の高い居住空間
が形成されている



3.3.3 将来都市構造

将来都市構造は、都市づくりの目標を実現するため、都市機能の基本的な配置のあり方を示すものです。そこで、都市機能を集約する拠点と維持する地域コミュニティ核、公共交通軸の方向性を踏まえ、本市がめざす将来都市構造を設定します。

計画的な土地利用と自然環境の保全

■ 商業・業務地ゾーン

都市拠点や地域拠点に、商業、医療、福祉、子育て支援、文化施設等の都市機能を集約します。

■ 住宅地ゾーン

商業・業務地ゾーン周辺の住宅地ゾーンでは、都市機能が近隣に立地している地域特性を活かし、都市拠点や地域拠点およびその周辺、公共交通軸周辺等に緩やかに居住を誘導します。

■ 産業・研究施設地ゾーン

工業的利用を中心とした土地利用を進めます。また、内陸部の工業団地へは、研究機関や企業の誘致を進めます。

■ 田園集落地ゾーン

北部のふれあいセンター周辺に広がる田園集落地ゾーンでは、地域住民が集まる核となるふれあいセンターの機能を維持しながら、営農環境と住環境が調和した空間を形成します。

■ 自然環境ゾーン

良好な自然環境を保全するとともに、自然とふれあえる場として活用します。

■ 市街地周辺緑地ゾーン

市街地の背景となる丘陵地において、建築・開発行為の規制・誘導により、良好な景観資源となる市街地周辺の緑地の保全を図ります。

拠点や地域コミュニティ核の連携

■ 道路軸

県外および県内の主要都市と本市をネットワークする広域連携軸、本市の骨格を形成する都市幹線軸、拠点や地域コミュニティ核等をネットワークする地域間連携軸の強化を図り、広域および地域の交流を促進します。

■ 公共交通軸

地域間の交流促進、市民生活の利便性向上、地域の活性化等を目的として、将来的に一定の運行本数が確保されたバスおよび鉄道（JR）により、拠点や地域コミュニティ核をつなぎます。

拠点や地域コミュニティ核の形成

■ 都市拠点

市民に対して多様なサービス（行政、商業、医療、福祉、子育て支援、文化施設）を提供するとともに、市外に対しても市の顔として市の魅力を発信します。

■ 地域拠点

都市拠点と互いに補完しながら、市民に対して多様なサービス（商業、医療、福祉）を提供します。

■ 地域コミュニティ核

小学校区を基本に、コミュニティ活動の中心となる場となりながら、日常生活において必要とされる基礎的なサービス（行政、医療、福祉）を提供します。

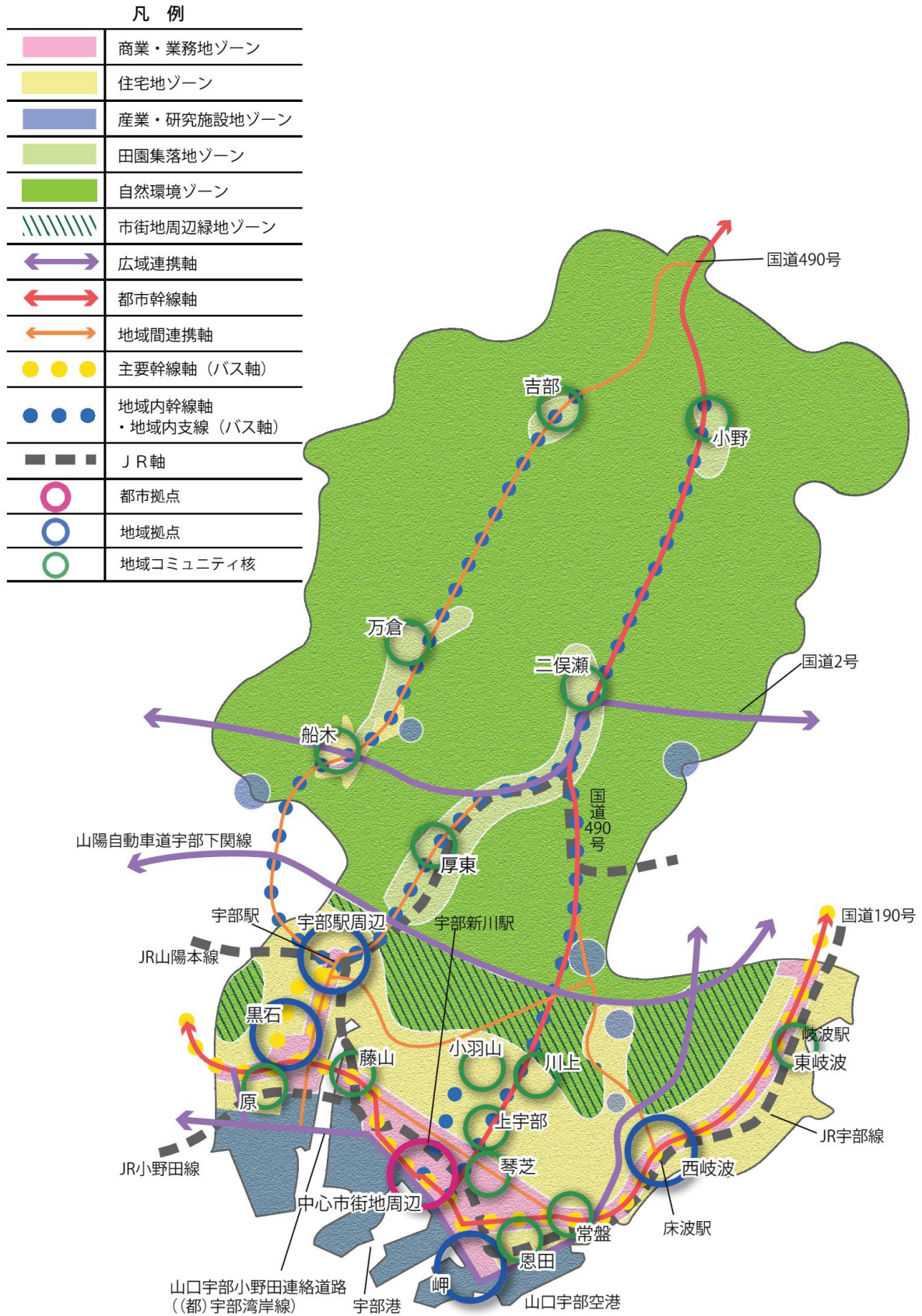


図 将来都市構造図